

## 印刷局全焼で不発行となった切手余話

平岩 道夫 (切手評論家)

本誌をご愛読いただいている都内のある消防士さんから「関東大震災で昭和天皇御成婚記念切手が、消火の設備が十分でなかったために、印刷局が焼け、まぼろしになったとか、実際には？」という質問が寄せられた。

たまたまおたずねの昭

和天皇ご成婚を記念して発行が予定されていた東宮御婚儀記念（不発行）の小型シート（複製品）が、最近、日本郵便切手商協同組合から創立25周年を記念して売り出された。

不発行になった理由は——ときの通信省（現・郵政省）では、大正12年11月に4種の東宮御婚儀記念切手を発行すべく準備を進めていた。だが同年9月1日の関東大震災により、保管中だった滝野川の印刷局も必死の消火活動にもかかわらず全焼、出来上っていた切手のほとんどが灰に……。

残念ながら切手の発行も中止されたが、不幸なことばかりでなく、朗報もあった。

それは震災直前の8月26日、当時、日本の委任統治領だった南洋庁管内の郵便局へ、最初に刷り上がった切手と絵はがき、記念スタンプなどが送られていたという事実。もちろん、すぐに返還命令が出され、それらは12月1日に、無事、東京へ戻ってきた。



通信省では、この4種の切手を記念帳に納めて、翌大正13年1月25日（結婚式の前日）天皇家や皇族に献上し、その残りの一部を省内の高官などに記念の意味でプレゼントした。

さて問題は4種の切手が「果たして何故東京に戻ってきたのか」ということになるが、何分にも当時の関係者がすでに他界したり、記録がはっきりしていないので“200組”とも“300組”ともいわれ、詳細は不明。

4種の切手の内訳は、1銭5厘と3銭がタテ型で“霞ヶ浦から見た筑波山”、8銭と20銭がヨコ型で“東京御所（当時）の風景”が描かれており、4種未使用のカタログ値段（1989年版による）は驚くなかれ、金263万円也——。

いま一度、複製品とはいえ、ホンモノそっくりの小型シートをとくにご覧あれ！